

30P1-am002

Castanopsis carlesii のタンニン及び関連化合物とケモタキソノミー的考察

○黄 永林¹, 田中 隆¹, 松尾 洋介¹, 河野 功¹, 李 典鵬² (¹長崎大院医歯薬, ²広西植物研)

【目的】ブナ科 *Castanopsis* 属植物は、中国で止瀉や慢性潰瘍などの民間治療薬として用いられる。本属植物はポリフェノール資源として重要であり、我々は、これまで中国産 *C. fissa* と *C. sclerophylla* の成分について報告した¹。今回は中国産 *C. carlesii* の成分探索と関連植物との HPLC による成分比較を行った。

【方法と結果】*C. carlesii* の新鮮葉を 80% aq. acetone で抽出し、Et₂O 分配後の水層を Sephadex LH-20 カラムクロマトで分画した。各画分は Diaion HP20 などのカラムクロマトにより分離精製し、2 種の新規化合物 **1** と **2** を含む計 48 種のタンニン及び関連化合物を単離した。新化合物の構造は、NMR、MS、CD スペクトルデータの解析、メチル化、加水分解などの検討に基づいて決定した。化合物 **2** は、ブナ科からは初めての大環状構造をもつエラジタンニンである。一方、*C. sieboldii* や *C. fissa* に含まれるトリテルペンを母核とするタンニンは検出されなかった。さらに、中国及び日本産 *Castanopsis* 属植物と近縁植物 32 種について 2 種類の逆相 HPLC 条件で分析し化学分類学的考察を行った。

1. Huang, Y. L., et al., *Phytochemistry*, **72**, 2006-2014 (2011); Huang, Y. L., et al., *Heterocycles*, **83**, 2321-2328 (2011).

